

講師：小笠原好彦

(滋賀大学名誉教授・東近江市文化財審議会会長など)

奈良時代の 石山寺の造営と保良宮



平城宮内裏正殿模型
画像提供：奈良文化財研究所

当日の スケジュール

受付開始：13：00

講演：13：30～15：30 小笠原好彦 (滋賀大学名誉教授・東近江市文化財審議会会長など)

見学：15：30 古代の石山寺の説明

終了予定：16：30

場所：講演 石山寺 塔頭 明王院 (〒520-0861 大津市石山寺 1-1-1) / 見学 石山寺境内

参加費：無料

定員：50名

申込方法 及び 問合せ

ホームページの申込フォームにてお申込みください(先着順)

ホームページ：www.rekishihyakka.jp

メール：info@rekishihyakka.jp

TEL：077-522-2238 / FAX：077-522-2221

主催：大津市浜大津・石山地区文化遺産活用実行委員会

後援：滋賀県、滋賀県教育委員会、大津市、大津市教育委員会

平成28年度文化庁文化芸術振興費補助金

(文化遺産を活かした地域活性化事業)

講演概要:「奈良時代の石山寺の造営と保良宮」

奈良時代後半の天平宝字5年(761)10月、平城宮の改築にともない、淳仁天皇・孝謙上皇は、近江の保良宮・京に遷都した。この保良宮の遷都にともない、瀬田川河畔にあった小寺院の石山寺が天平宝字5年末から6年8月にかけて、大增改築することになった。この大工事は、造東大寺司に造石山寺院所を設けて実施された。その造営は、『正倉院文書』に、開始から終りまで写経所関連の紙背文書として残っており、その細かな造営過程、構築した建物、造営従事者、経費などをじつに詳細に知ることができる。また、石山寺との関連から、まだ不明な保良宮の所在地もほぼ推測できる。

講師プロフィール

小笠原好彦(おがさわら よしひこ)



1941年 青森市生まれ。

1966年3月 東北大学大学院文学研究科修士課程修了。

1966年4月～1979年3月 奈良国立文化財研究所に勤務し、平城京と飛鳥の発掘調査に従事。

1979年4月～2007年3月 滋賀大学助教授・教授

2007年4月～滋賀大学名誉教授

学位: 博士(文学・東北大学)

会場マップ



会場へのアクセス

- 京阪 石山寺駅(石坂線)より 徒歩10分
- JR石山駅(東海道線)より 石山駅京阪バス石山寺山門前 下車 すぐ

本プロジェクトについて

本プロジェクト「びわ湖大津歴史百科(正式名称:大津市浜大津・石山地区の文化遺産を活かした地域活性化事業)」は、大津市浜大津・石山地区文化遺産活用実行委員会が、日本を代表する寺院である石山寺と三井寺が連携し、点ではなく帯として、大津市石山～浜大津地区に点在する豊富な文化遺産の情報発信を行ない、保護と活用について包括的な啓発事業を実施することで地域の活性化を目指すものです。各種イベント(ワークショップ4回、フォーラム)、インターネットやアプリを用いた情報発信等を行います。

本プロジェクトは、平成28年度文化庁文化芸術振興費補助事業(文化遺産を活かした地域活性化事業)として実施しています。

主催: 大津市浜大津・石山地区文化遺産活用実行委員会